

「三寒四温」は冬季に寒い日が3日ほど続くこと、そのあと4日ほど温暖な日が続く、また寒くなるというように7日周期で繰り返される現象を意味する言葉

宮田守男

葉だ。各地から開花の情報が伝わってくるが白馬の里は銀世界が続いている。

内閣府は国立天文台が2026年の春分の日と秋分の日を確定させたことに伴う2026年の「国民の祝日」を発表した。5月2日(土)〜6日(水)、9月19日(土)〜23日(水)で5連休が可能

な並びになっているので来年の計画は楽しみにする。

27年前の3月5日〜14日まで長野パラリンピックが開催され、白馬スノーハーブでクロスカントリースキーの感動的な熱戦が繰り広

げられた。特に白馬会場では知的障がい者が初めて参加を認められた。しかし次期夏季大会(シドニー)で健常者の大会参加も露見して知的障がい者部門の実施が見送られており、白馬での大会は語

開会式で聖火の点火役も務め、スキー回転の片下肢障がいクラスで5位入賞を果たし、小谷村の小林深雪さんと中村由紀ガイドはバイアスロン視覚障がい者のクラスで優勝、地元を盛り上げた。天皇・

感動を語り継ぐことが求められている

り草になっている。今年の積雪状況と違い、当時の雪不足による対応作業には地元の皆さんや自衛隊の活躍を忘

る。また選手を一生懸命応援しようとする小学生や保育園児が銘々でオリジナルな小旗を作り、

馬村の丸山直也さんは

花や小鳥のフェイスベイントをしたりした経験は子供たちにとって豊かな人づくりになると違いない。また会



豪雪の中でも消火栓の管理を地域消防団員が担う。一人一人が地域を共に支えたいとの思いが築けたのもパラリンピック開催の財産なのかもしれない

動の舞台は、四季折々の美しいものに巡り合ったときに、人は誰しも親しい友の事を思い感動を分かち合いたいと願うものだと中国の漢詩に「雪月花の時に最も君を憶(おも)う」がある。高齢者や障がい者などを排除するのではなく、健常者と同等に当たり前に生活できる考え方のノーマライゼーションが実践できる地域を築くのもパラリンピックの会場地としての責任だと強く意識すべきなのだろう。

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)